

茅ヶ崎市立病院 通信

当院の取り組みや健康に関する様々な情報をお知らせします

令和8年7月1日発行 特別号

地域の基幹病院として

市民の健康を守るため



特集

新しい市立病院

- 整形外科
- 呼吸器内科・呼吸器外科
- 代謝内分泌内科・腎臓内科



茅ヶ崎市立病院

基本理念

健やか・共創

私たちは、市民の健康を守るために
いつでも・だれにでも良質な医療を提供します。

私たちは、患者さんと地域の医療機関と共に、
効果的かつ効率的な医療を創り、社会の利益に貢献します。

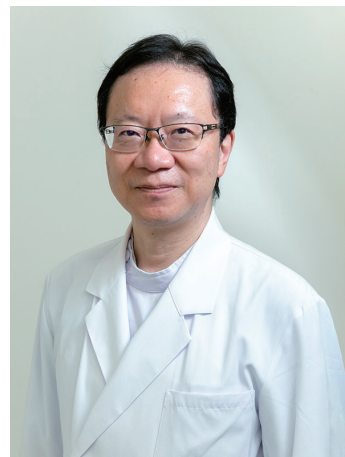
基本方針

1. 市民から信頼される高度で良質な医療を提供します。
2. 急性期医療を担う地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し地域医療の発展に貢献します。
3. 救急医療の充実に努めます。
4. 患者さんの尊厳、権利を尊重し、患者さん中心のチーム医療を行います。
5. 積極的に診療情報を提供し、患者さんへの説明と同意（インフォームドコンセント）に基づく医療を提供します。
6. 医療安全対策、個人情報保護に努めます。
7. 医療機関として、人材育成と研鑽に努めます。
8. 経営の健全化を図り、安定した病院経営を行います。

病 院 長 挨拶

茅ヶ崎市立病院 病院長

ふじなみ きよし
藤浪 潔



日頃より当院の診療にご理解とご支援をいただき、有り難うございます。

当院は「健やか・共創」の基本理念のもと、地域の急性期基幹病院として臨床研修病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、神奈川県DMAT指定病院、地域周産期母子医療センター、神奈川県がん診療連携指定病院、紹介受診重点医療機関等多くの機能を担っております。

急性期基幹病院として令和7年度は特に入院診療、救急診療に力を入れてきました。新規入院患者数は11,374人（前年度より471人増加）、手術室での手術件数4,138件（前年度より273件増加）、救急車搬送件数5,483台（前年度より505台増加）といずれも前年度より増加し、さらにコロナ前の令和元年度よりも増加しました。

令和5年7月に稼働開始した、手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術も、令和7年度は呼吸器外科で肺癌の手術、泌尿器科では7cm以下の腎癌の部分切除術、膀胱癌をはじめとした骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術にも適応を拡大いたしました。特に肺癌のロボット手術は2025年4月から2026年3月までの実績として50例施行いたしました。従来からの外科での結腸癌、直腸癌、胃癌の手術、泌尿器科での前立腺癌、膀胱癌の手術、呼吸器外科での縦隔腫瘍に対する手術も順調に症例数を増やしております。

整形外科では今年度より湘南東部医療圏初の人工関節手術支援ロボット“Mako（メイコー）”を導入し、より安全で確実な手術を提供いたします。

消化器内科では令和7年度に“茅ヶ崎・寒川地域 早期膵がん診断プロジェクト”を発足し、予後不良の膵がんの早期診断を行っております。

救急に関しましては、満床での救急お断りを減らすべく適正期間での退院を進めることにより、満床でのお断り件数を年間7件（前年度53件）と大きく減少することが出来ました。

これからも地域の救急医療、小児・周産期医療、がん医療をはじめ、より良質な急性期医療を提供できるよう努力してまいります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

人工関節手術支援ロボットを活用し 術前計画に基づいた手術を支援

術者の経験に頼る部分があった手術 操作を術前計画に基づいて支援

整形外科は骨や関節、筋肉、さらに脊椎、末梢神経などの障害や疾患を扱っています。当院では2023年、「脊椎センター」「人工関節センター」を開設しました。2026年4月時点で常勤医師が8名、非常勤医師は3名の体制を整備し、広範囲の障害、疾患に対応しています。特に「脊椎」「人工関節」に関しては、日本整形外科学会認定整形外科専門医を中心としたチーム医療で対応しています。

さらに2026年4月、人工関節手術支援ロボット「Mako（メイコー）」を導入しました。これまで術者の経験に頼る部分が大きかった人工関節手術において、術前計画に基づいた手術操作を支援できるようになりました。

患者さんの状態や術式に応じて、術前計画に沿った人工関節手術に対応できる体制を整えています。

自動制御システムを備えた支援ロボット で術前計画に沿った人工関節手術を サポート

これまで人工関節センターでは、コンピュータナビゲーションシステムを使っていました。これは自動車のナビゲーションシステムのようなものです。車のナビでは地図と道筋が示され、ドライバーはそのナビに従って運転します。人工関節手術のナビゲーションシステムは、骨切除の位置や角度などを画像化し、それを見ながら手術を行うというものでした。その「地図」に沿って切れるかは、術者の技術や経験に依存す





る部分がありました。

人工関節手術は、骨を切ったり削ったりして人工関節に置換するため、削り方のわずかな過不足が術後の違和感につながる場合があります。再手術が必要となる場合には、患者さんの負担が大きくなることもあります。

新しく導入した同ロボットには、「自動制御システム」が備わっており、計画外の方角へ進みにくいよう制御されます。ナビの例で言えば、計画外の道に進もうとした際に、進みにくくなるよう支援する仕組みです。自動運転ではありませんが、術前計画に沿った操作を支援する役割があります。

同ロボットを用いた人工関節手術では、まずCT検査で3Dの骨格データを作成します。それをコンピュータで解析して設計図を作り、データをロボットと連携します。骨を切る、削るという工程では、ロボティックアームによる支援を受けながら、術前計画に沿った操作を行います。

また、人工関節手術では、骨切除の範囲や角度を確認しながら慎重に操作することが求められます。手術支援ロボットを活用することで、計画範囲内での骨切除をサポートし、手術時間や身体的負担の軽減につながる場合があります。

地域で人工関節手術の選択肢を提供 医師の経験の積み重ねにもつながる 支援

このロボットを使うことで、医師の経験を補助し、術前計画に沿った手術操作を支援することができます。患者さんにとっては、地域の身近な病院で人工関節手術の選択肢を検討できる体

制があることは、治療を考える際の選択肢の一つになると考えています。

一方で医師にとっても、同ロボットでの手術を経験することで学ぶことがあると考えています。今までは切る角度、削る深さなどは感覚に頼る部分が大きく、経験のある医師に学ぶ際も、「感覚を学ぶ」という難しい過程がありました。ロボット手術では、術前計画に沿った操作を支援してくれるので、リスク低減に配慮しながら、経験を積むことができます。その経験が糧になり、ロボットを使わない手術を行ったときにも生きてくると考えています。

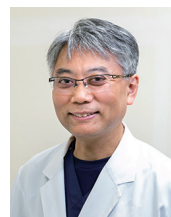
今は人工関節手術に関しては、患者さんの状態や術式に応じて、手術支援ロボットを使用するケースが多くなりつつあります。

脊椎・関節の専門性を生かしながら 全身に関わる疾患、障害にも対応

人工関節センターに加え、当院では脊椎センターを開設し、脊椎に関わる障害にも力を入れています。2025年4月から2026年3月までの脊椎関連手術は約190件です。脊椎が原因で股関節や膝関節に悪影響が出るケースもあります。人間の身体はつながっているので、整形外科では脊椎、関節などの専門は分かれています。どこを治せばいいのか、全身を調べないとわからないことも多くあります。

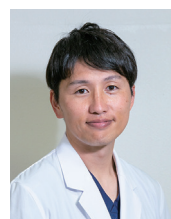
当院では、複数の専門領域の医師が連携し、整形外科疾患全般にわたって診療しています。その上で、脊椎や人工関節などの専門的な診療体制もさらに充実させていきます。

INTERVIEW



整形外科部長・
脊椎センター長
中央診療部長
河野 心範

日本整形外科学会認定
整形外科専門医、日本
脊椎脊髄病学会認定
脊椎脊髄外科専門医・
指導医、身体障害者福
祉法指定医（肢体不自
由）



人工関節副センター長
井窪 元太

日本整形外科学会認定
整形外科専門医



内科と外科が連携して 肺がんをはじめとする呼吸器疾患に対応

呼吸器疾患を幅広く診る内科と 医師2人体制で柔軟に対応する外科

2026年4月現在、茅ヶ崎市立病院には呼吸器内科と呼吸器外科がそろっています。

呼吸器内科では、診療で一番多いのは肺がんですが、他にも肺や気管支に関する疾患、喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺炎、胸膜炎、感染症などに対応しています。呼吸器疾患を幅広く診ることができることが特長です。また、より高度な医療が必要かどうかを迅速に判断し、必要に応じて高度専門医療機関と連携をとりつつ地域における専門医療提供の要となることも重視しています。

呼吸器外科は、医師2人体制で対応しています。2026年4月時点で常勤医師が2人いることで、より柔軟に患者さんの診療に対応できる体制を整えています。肺がんや転移がんの外科手術が6割ほどを占め、その他にも気胸や、診断が難しい症例に対して、診断・治療を目的とした外科的処置を行っています。

肺がんは、自覚症状があまりなく、健康診断で異常が見つかって受診されるケースが多くなっています。痛みや息苦しさといった症状がないまま、がんと診断されることもあるため、

とても驚かれる方も少なくありません。そのため、健康診断を定期的に受けることの大切さを、さまざまな機会を通して伝えています。

肺がんの患者さんは比較的年齢層が高く、呼吸器だけでなく、さまざまな合併症があったり、それに合わせて多くの薬を服用していたりすることがあります。薬の費用や、ご家族・関係機関との連絡など、治療以外の面でも複雑な背景を抱えている場合があります。疾患そのものだけを診ていればよいわけではないため、そのようなことも含めて、患者さんに向き合うことを心がけています。

ロボット支援手術にも対応 内科では薬物療法も選択肢に

肺がんに関しては、手術でがんを取り切ることが、根治を目指すうえで重要な選択肢の一つです。手術方法については、患者さんの状態に応じた方法を選択しています。患者さんの身体への負担に配慮し、状態に合わせた適切なアプローチによる胸腔鏡手術を取り入れ、状況によっては開胸手術も行います。

2025年には、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使った手術も開始しました。現在は、患者さんの状態や術式に応じて、肺がん手術にロボッ





ト支援手術を用いる場合があります。

ロボットに聞くと、逆に不安に思う方もいます。「ロボットに手術ができるのか」と感じる方もいるかもしれません。実際には、ロボットが自動で手術を行うのではなく、医師が操作しながら手術を進めます。当院では、胸腔鏡手術やロボット支援手術など、患者さんの状態や手術内容に応じて方法を選択しています。肺の部分切除など、一部の手術ではロボット支援手術が適さない場合もあります。

内科としては、手術を希望されない方、あるいは体の状態などにより手術が難しい方に対して、薬物療法を検討します。患者さんの状態や薬の適応にもよりますが、免疫の働きを利用する薬や、がんの性質に合わせた薬など、薬物療法の選択肢は広がっています。これらの薬に対して、当院ですぐにすべて対応できるわけではありませんが、確立された治療を、患者さんの状態に応じて適切に提供できるよう努めています。

発見が難しい肺がんは健康診断がきっかけになることも

内科・外科が連携して治療方針を検討

肺がんは発見が難しい病気です。風邪のような症状が長引き、なかなか治らないため受診し、発見されるケースもありますが、多くは健康診

断のレントゲン検査で見つかっています。気になる方は、費用はかかりますが、CT 検査によって、レントゲンでは心臓や骨に隠れて見えにくい部分まで確認できる場合があります。検査の必要性については医師と相談しながら判断していただければと思います。

健康診断でD判定、E判定などの異常を指摘された場合は、放置せず医療機関に相談してください。内科でも外科でもかまいませんが、まずは呼吸器内科で診療し、必要に応じて外科と連携することもできます。

手術の適応についても、当院では呼吸器内科と呼吸器外科が連絡を取り合いながら、患者さんに合った治療方針を検討しています。肺がんでは手術が重要な選択肢となる場合がありますが、肺を切除すれば、その後の生活に影響が出ることもあります。ごく早期であれば経過を見ながら判断する場合や、すぐに命に関わる病状でないなら、急いで切除せず、大きくなる兆候が見えた段階で手術を検討する場合があります。当院では、内科と外科の両面から患者さんの状態を確認し、治療方針を考えています。

呼吸器内科と呼吸器外科が連携し、患者さんの状態に応じた診療を行っています。健康診断で異常を指摘された方や、長引く咳など気になる症状がある方は、ご相談ください。

INTERVIEW



呼吸器外科部長
井上 雄太

日本外科学会認定外科専門医、日本呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医



呼吸器内科部長
塚原 利典

日本内科学会認定総合内科専門医・内科指導医、日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、身体障害者福祉法指定医（呼吸器機能障害）



糖尿病、腎臓疾患に向き合う

糖尿病や肥満症に取り組む代謝内分泌内科

医師5人体制で診療と治療に対応

代謝内分泌内科という名称は、一般の方にはなじみがないかもしれませんが、主に糖尿病や内分泌、ホルモン異常などの疾患を診ています。病院によっては糖尿病内科となっていることもありますが、当院では糖尿病だけではなく、脂質異常症、ホルモンによる高血圧なども扱っているため、この名称になっています。

とはいえ、実際に一番多いのは糖尿病です。2026年4月現在、当院では医師5人体制で診療に対応しており、地域のクリニックから紹介される患者さんにも、可能な限り対応できる体制づくりに努めています。インスリンを持続的に少量ずつ注入するインスリンポンプや、センサーを用いて血糖変動を確認できる持続グルコース測定器など、丁寧な経過観察と適切な管理が必要な治療にも対応しています。

最近では肥満症治療にも力を入れています。近年、肥満症の治療薬が日本でも使われるよう

になり、当院では肥満症治療薬の処方に関して、厚生労働省が定める保険診療の規定に適合した体制で対応しています。

急性期^{*}の透析から腹膜透析にも対応
腎臓内科は全身の病態を診るハブの役割

腎臓内科は、主に腎炎などの腎疾患の治療を行っています。膠原病のように全身性疾患と関連した腎疾患もあるため、全身の病態を踏まえて診療する科でもあります。腎臓は高血圧、糖尿病との関連性も強く、生活習慣の管理にも関わっています。

腎臓の治療には、大きく分けて血液透析、腹膜透析、腎移植、薬による治療があります。患者さんやご家族の考え方、体調、年齢などを考慮した上で、どの治療を選択するのかを十分に説明し、相談しながら検討します。透析に関しては、当院では急性期の透析にも対応しています。

生活習慣病によって腎臓に影響が出る方は多く、透析に至る原因としては糖尿病、高血圧、

※：腎臓の機能が急激に低下した状態

腎炎などが挙げられます。この10年ほど、糖尿病は治療薬が進歩してきており、透析に至る割合には変化も見られています。一方で、高齢化が進むにつれて、高血圧が原因で腎臓を痛める患者さんは今後も増えていくと考えられます。高齢になるほど適正な血圧には個人差があり、それぞれの患者さんに合った薬を選択することが大切です。血圧を下げることで体に負担がないかを見極めることも、専門医の重要な役割です。

また、透析患者さんは、がんや感染症などを合併して入院になることがあり、手術が必要なケースもあります。そういったときに腎臓内科はハブの役割を果たし、透析の管理を行いながら、気づいたことを主治医に伝えるなど、診療を支えています。

糖尿病から人工透析、ホルモン検査から高血圧治療

顔の見える院内連携で治療に対応

糖尿病を持っている患者さんは、長い年月の中で腎臓に影響が出ることがあります。そうすると代謝内分泌内科だけでは対応が難しいため、腎臓内科との連携が必要になります。

逆に高血圧系の疾患についても、原因の多くは遺伝や生活習慣ですが、内分泌疾患が原因で高血圧になる場合もあります。そのため、内分泌疾患が隠れていないかホルモン検査を行い、原因に応じた治療を検討することがあります。

両科は外来の診察室が隣接しているため、必要なときにすぐ相談できる環境があります。「腎臓の治療でこの薬を追加したい」「その薬なら糖

尿病には問題ない」といったやりとりを、顔の見える状態で行えることは、当院の特徴の一つです。そこでは両科の医師だけでなく、看護師や管理栄養士、薬剤師も加わり、それぞれの専門性を生かしながら対応しています。

院内連携でいえば、小児科には糖尿病を専門に診る医師もいるため、小児期に発症して治療を続けてきた患者さんが、大人になった後も代謝内分泌内科で治療を継続できる体制があります。小児科から成人診療へつなぐことができる点も、当院の特徴の一つです。

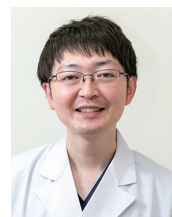
患者さんの負担を減らすために 地域のクリニックとの情報交換、連携を スムーズに

腎臓内科を受診する方は、健康診断やかかりつけ医で行う腎機能チェック、尿検査で腎臓の問題が見つかり、紹介されるケースが多くあります。そのため、地域のクリニックとの連携がとても大切になります。重症の患者さんは当院で診療し、その後の管理はかかりつけ医にお願いするなど、地域全体で診療をつなげていくことが重要です。

糖尿病に関しても、血糖値が高い方は多く、専門医ですべてを診ることは難しい面があります。軽症の糖尿病については、地域の先生方にも診療を担っていただくことで、患者さんの負担を減らしながら、必要な医療につなげることができます。

私たちは、勉強会などを通して地域医療連携を進め、近隣の先生方とのコミュニケーションを密にすることにも力を入れています。

INTERVIEW



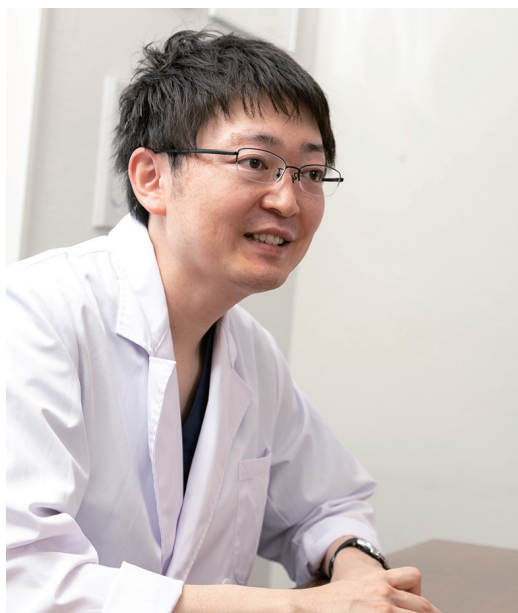
代謝内分泌内科部長
宮下 大介

日本内科学会認定総合内科専門医・内科指導医、日本糖尿病学会認定専門医・研修指導医、日本内分泌学会代謝科(内科)専門医・指導医、日本専門医機構認定内分泌領域専門研修指導医



腎臓内科部長
増田 真一朗

日本内科学会認定内科医・指導医、日本透析医学会認定透析専門医、日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医、日本高血圧学会認定専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医(じん臓機能障害)



病院の概要

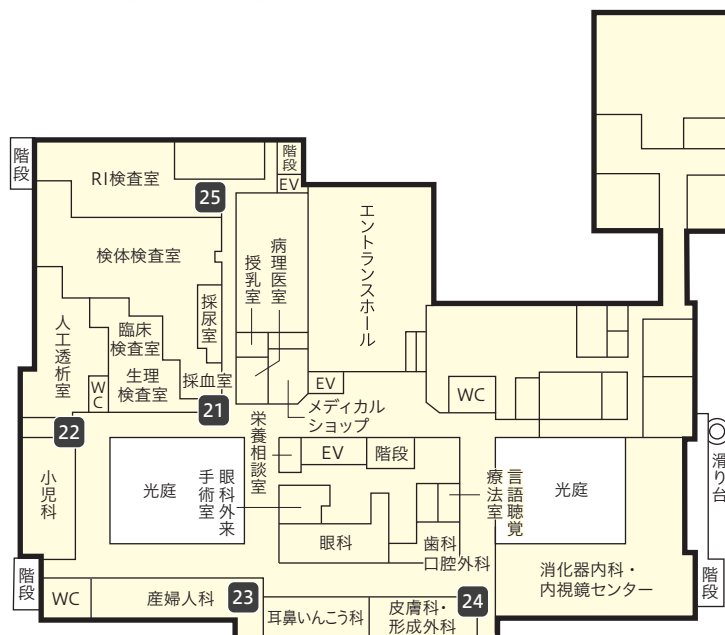
令和8年4月1日現在

開設年月日	昭和18年8月26日
病院事業管理者	中沢 明紀
病 院 長	藤浪 潔
所 在 地	〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村五丁目15番1号
診 療 科 目	総合内科・脳神経内科・呼吸器内科・消化器内科・代謝内分泌内科・循環器内科・腎臓内科・リウマチ膠原病内科・小児科・外科・消化器外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・乳腺外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・麻酔科・精神神経科・歯科口腔外科
病 床 数	401床（一般）
主 な 認 定 ・ 指 定 等	地域医療支援病院 神奈川県がん診療連携指定病院 地域周産期母子医療センター 臨床研修指定病院 災害拠点病院 神奈川県DMAT指定病院 DPC対象病院 救急告示病院

フロアガイド

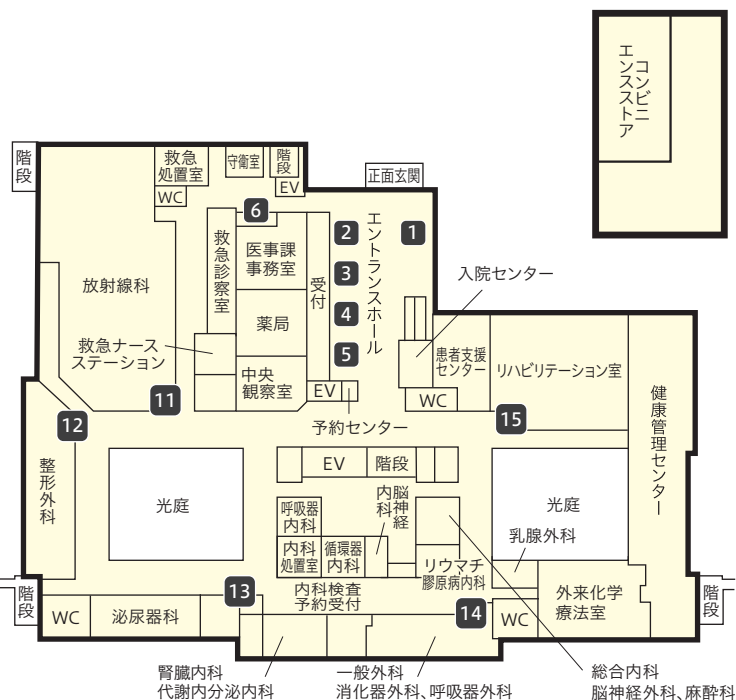
2F

- 21 検査科
採尿、採血、超音波検査
心電図、脳波、呼吸機能
- 22 小児科、人工透析
- 23 眼科、眼科外来手術室、産婦人科
耳鼻いんこう科
- 24 皮膚科、形成外科
歯科口腔外科
消化器内科・内視鏡センター
- 25 放射線科、RI検査



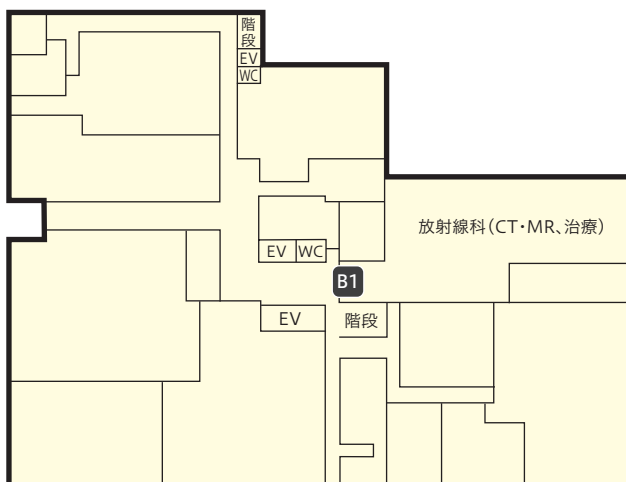
1F

- 1 受診相談
- 2 再来受付、予約併診窓口、保険確認窓口
- 3 新患受付、紹介患者受付、各種書類受付
- 4 会計窓口、計算窓口
- 5 薬局窓口
- 6 夜間・休診診療、入院受付
- 11 放射線科、X線、CT、MR
- 12 整形外科
- 13 腎臓内科、代謝内分泌内科
泌尿器科、呼吸器内科
- 14 総合内科、一般外科
消化器外科、呼吸器外科
脳神経外科、乳腺外科、
リウマチ膠原病内科、循環器内科
脳神経内科、麻酔科・外来化学療法室
- 15 リハビリテーション科
リハビリテーション室



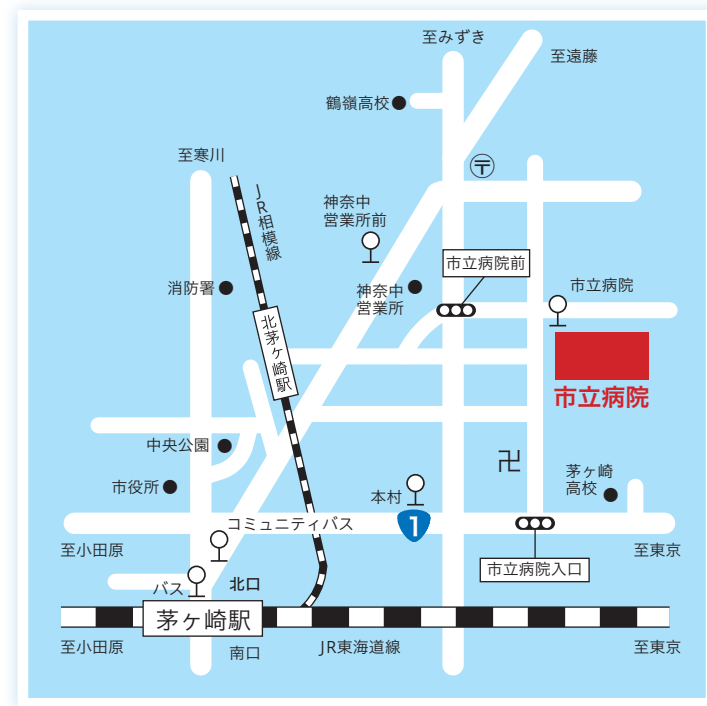
B1F

- B1 放射線科
CT、MR、治療



(令和8年6月現在)

交通案内



 電車をご利用の場合

東海道線	茅ヶ崎駅(北口)下車	徒歩25分
相模線	北茅ヶ崎駅下車	徒歩10分

 バスをご利用の場合

JR茅ヶ崎駅(北口バスターミナル)より

■4番乗り場

室田循環(茅14)・(茅16)・高山車庫行(辻09)
 藤沢駅北口行(藤21)
 『市立病院』下車
 藤沢駅北口行(藤07・08)・辻堂駅北口行(辻01)
 『本村』下車徒歩10分

■1番乗り場

湘南ライフタウン行(茅03)・文教大学行(茅50)
湘南台駅西口行(湘11)
『神奈中営業所前』下車徒歩5分

■2番乗り場

鶴が台団地行(茅15)・松風台行(茅17)(茅81)
湘南みずき行(茅19)
『神奈中営業所前』下車徒歩5分

JR辻堂駅(北口バスターミナル)より

■6番乗り場

市立病院行(辻08)・茅ヶ崎駅行(辻09)
『市立病院』下車

 コミュニティバスをご利用の場合

JR茅ヶ崎駅北口より

鶴嶺循環市立病院線（北コース・南コース）
「市立病院」下車

JR茅ヶ崎駅南口より

中海岸南湖循環市立病院線
東部循環市立病院線（松が丘コース）
「市立病院」下車

JR香川駅より

北部循環市立病院線
「市立病院」下車

JR辻堂駅西口より

東部循環市立病院線(小和田・松浪コース)
「市立病院」下車

P 駐車場は有料になります

- ・30分まで無料
- ・30分を超えて3時間まで200円
- ・3時間を超えた場合には30分ごとに50円

令和8年度 茅ヶ崎市立病院通信 特別号

発行／茅ヶ崎市立病院 患者支援センター

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL:0467-52-1111(代) FAX:0467-52-1133